



綾町



2017年11月1日
宮崎県東諸県郡綾町
公益財団法人イオン環境財団

綾ユネスコエコパークで新たな植樹活動を開始します 11/4 (土) 宮崎県「綾町イオンの森づくり」を実施

宮崎県東諸県郡綾町（町長 前田穰 以下、綾町）と公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下、当財団）は11月4日（土）、「綾町イオンの森づくり」植樹活動を実施します。

日本最大規模の照葉樹林が広がる綾町は、2012年7月、国内で32年ぶり5カ所目となるユネスコエコパーク※として登録されました。また当財団は、本年8月に日本ユネスコエコパークネットワーク（会長 前田穰 宮崎県綾町長）と「生態系の保全」と「持続可能な利活用」の調和を目指し、①生物多様性の保全 ②持続可能な資源利用と発展 ③ユネスコエコパークを利用した環境教育 ④ユネスコエコパークの価値と知見の啓蒙に関し、国内初となる連携協定を締結しました。

綾町と当財団は、中学校校舎の建て替えのため伐採された町有林跡地に、「綾町イオンの森」として2013年より3年間で、1,750名のボランティアの皆さまと地域に自生する樹種15,000本を植樹しています。今回、連携協定締結を機に新たに「綾町イオンの森づくり」をスタートします。綾ユネスコエコパークの中核に位置する「綾町イオンの森」を、人と自然の共生を実現できるユネスコエコパークらしい森として整備するため、本年は200名のボランティアの皆さまと1,200本を植樹します。また今後は、「綾町イオンの森」を生物多様性の保全の他、子どもたちの環境教育の場として活用します。

綾町とイオン環境財団は、今後もいのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時：2017年11月4日（土） 10:00～12:00

場 所：宮崎県東諸県郡綾町大字北俣字割付2027-1

参加人数：200名

本 数：1,200本

面 積：6.0ha

樹 種：ヤマザクラ・ヤブツバキ・サザンカ・クチナシなど計16種

主 催：宮崎県綾町、公益財団法人イオン環境財団

後 援：宮崎県

協 力：宮崎県中央森林組合、イオン九州株式会社、マックスバリュ九州株式会社

出 席 者：宮崎県知事 河野 俊嗣 様

（予定） 宮崎県東諸県郡綾町長 前田 穰

公益財団法人イオン環境財団理事長 岡田 卓也

※ 生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的として、1976年よりユネスコが開始。生物圏保存地域（Biosphere Reserves：BR）に、より親しみをもってもらうため、日本国内ではBRをユネスコエコパークと呼ぶことが、2010年1月、日本ユネスコ国内委員会にて正式に決定されました。ユネスコエコパークの登録件数は、120カ国669件（2017年6月現在）となっており、現在日本では「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」、「屋久島・口永良部島」「綾」、「只見」、「南アルプス」、「みなかみ」、「祖母・傾・大崩」の9件が登録されています。

ご参考

◆「綾町イオンの森」植樹について

(第1回) 2013年11月23日(土) 500名が5,000本を植樹



(第2回) 2014年11月22日(土) 550名が5,000本を植樹



(第3回) 2015年11月21日(土) 700名が5,000本を植樹



◆2015年3月 綾町立綾中学校

伐採時期を迎えた町有林の木材を、老朽化した中学校校舎の建て替えに活用



【日本ユネスコエコパークネットワークについて】

日本国内におけるユネスコエコパークの地域間連携を促進し、一つの地域では対処できない課題への対応、社会への働きかけなどを行い、ユネスコエコパークの理念に基づいた人間と生物圏とのより良い関係を築いていくことを趣旨とした、各ユネスコエコパーク単位での会員からなる組織です。

【公益財団法人イオン環境財団の活動について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,144万本（2017年2月末時点）を超えています。

（ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

■植樹活動

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることを目的として、日本はもとよりアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2016年度は、国内では千葉県千葉市、北海道厚真町、宮城県亶理町、大分県竹田市にて、海外ではカンボジア・プノンペン、ミャンマー・ヤンゴン、中国・北京市密雲、ベトナム・ハノイにおいて植樹活動を行いました。2017年度は、国内では北海道厚真町、福島県いわき市、宮城県亶理町、大分県竹田市、千葉県千葉市、沖縄県糸満市平和祈念公園にて、海外ではカンボジア・プノンペン、ミャンマー・ヤンゴン、中国・北京市密雲、ベトナム・ハノイにおいて植樹活動を実施します。



2017年 カンボジア植樹



2017年 厚真町植樹

■助成 環境活動助成事業

1991年より26年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行っています。2016年度は、植樹、森林整備、砂漠化防止、里地・里山・里海の保全、湖沼・河川の浄化、野生生物の保護、絶滅危惧生物の保護などを 行う団体99件に、9,797万円の助成を行いました。累計では2,744件、総額24億9,700万円となりました。2017年も継続して環境活動への助成を実施します。



NPO法人しろい環境塾ドングリ工作（千葉）

■顕彰 生物多様性アワード

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2016年度は第4回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施し、2017年度は第5回「生物多様性日本アワード（国内賞）」を実施しました。



第5回「生物多様性日本アワード」受賞式(国連大学)

■環境教育

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。2017年度は、「生物多様性と再生」をテーマに、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）の8ヶ国合計64名の学生が参加し、8月1日～6日の期間、日本で開催しました。



第6回ASEP開講式（早稲田大学大隈講堂）

2017年10月13日（金）には、王立プノンペン大学（カンボジア）にて、国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有ができる教育を行うことを目的とした「生物多様性を越えて2017」を開催しました。また、2018年1月20日（土）には、東京大学安田講堂にて、地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考える「第2回イオン未来の地球フォーラム」の実施を予定しています。



第2回生物多様性を越えて
(カンボジア王立プノンペン大学)



第1回イオン未来の地球フォーラム(東京大学)

再生可能エネルギー活用分野では、啓発・普及、および環境教育を目的に、国内外の小中学校へ「太陽光発電システムの寄贈」を2009年から行っています。2016年度までに、日本、マレーシア、ベトナム、中国の合計40校に寄贈しました。2017年度は昨年に引き続き、中国武漢市の小中学校5校を対象に寄贈しました。



2017年太陽光発電システムの寄贈(中国・武漢)